

トマトの施用例①

施用圃場：千葉県

施用作物：大玉トマト

施用資材：地力の素【細粒】 60kg/10a



慣行区



試験区



結果：ネコブセンチュウ激発圃場で地力の素の施用試験を行った。

慣行区はセンチュウ被害と思われる萎れがほとんどの株に発生し、中段以降の収穫が不可能となった。

地力の素の施用区でも根こぶは発生していたが、十分な根量が維持されていた。

裏面に続きます

トマトの施用例②

施用圃場：千葉県

施用作物：大玉トマト

施用資材：カナディアンフルボ 1,000 倍を葉面散布（5 回）



慣行区



カナディアンフルボ散布区

結果：慣行区は日照不足により株が徒長し、硝酸態窒素を消化できていない。

同じ日照条件のフルボ散布区では樹勢が維持されている。

推奨施用方法：ハウス栽培トマト（ハウス果菜類の他品目も同様）

▽以下の施用量を全面散布し土壌混和した後、畝立て・定植を行ってください。

○地力の素【細粒】：60～80kg／10 a ○地力の素【粗粒】：60～100kg／10 a

▽発根と肥料吸収量が大幅に増加するため、元肥は控えめに施し、適宜追肥してください。

▽施用後は十分に灌水してください。

▽土壌くん蒸を行った場合、ガス抜き後に施用してください。

▽樹勢回復にカナディアンフルボの併用が効果的です。

○日照不足時に 1,000～2,000 倍希釈で葉面散布する。

○長段穫りでは中段以降、10 日毎に 1,000～2,000 倍で葉面散布、または灌注する。